

2015年3月15日礼拝メッセージ

主題：求む！賢い女性

聖書箇所：マタイ25：1－13、出エジプト30：1－10

ある講演会に出席したくて申し込みました。残念ながら抽選に外れて参加できず、その内容を少し新聞で散見するに留まってしまいました。ドイツ首相のメルケルさん、来日講演会です。私は一度彼女と話をしてみたかったのです。旧東ドイツ出身でお父さんはプロテスタントの牧師、本人は物理学の博士で、まったく政治には関わりのない、というか関われない家系だったと思います。もちろん日本にごろごろいる二世政治家、三世政治家とはまったく基盤が違います。

彼女はまたドイツの首脳で初めてイスラエル議会で演説をした人物でもあります。その際、ホロコーストという言葉を使わず、シュアーという言葉を使ってイスラエルの人々への配慮もしました。その発言はかなり思慮深く、慎重なのですが、ユダヤ人虐殺に関しては、日本の村山談話などはるかにしのぐ言い回しで、ドイツ国としての非を認めており、かなり腹のすわった女性だということもわかります。その面目躍如たる事柄として本人が理論物理学者、夫が量子物理学者であるにも関わらず、日本の原発事故を見てドイツの電力を脱原発へと大きく舵取りしました。

芸術、学術に対する見識が高いと同時に、サッカー大好きの庶民的な部分も持ち合わせています。その彼女の言葉を生で聞いてみたかったわけです。外れましたが。

世界でもっとも力のある女性ということで2006年から2014年まで、2010年を除いて九回選ばれています。力があるだけでなく、おそらくもっとも賢い女性の一人ではないか、と思うわけです。

聖書の求める賢い女性とはどんな人なのでしょう。今日のマタイ福音書は賢い女性を求める主の言葉からなっています。ストーリーは単純、5人の賢い娘、5人の愚かな娘の話で、聖書を読めばやはり準備は大事だな、ふだんから高い意識でいることは大事だなと思わされます。ではこの賢い娘たちは、メルケルのごときスーパーレディーだったのでしょうか。そういう人も入っていたかもしれません。しかし、賢い娘たちも愚かな娘たちも、双方ともうとうとして眠ったのでした。声をかけられて初めて双方とも準備し始めたのです。私たちは自分が賢い娘だ、と思った、または言われた、としても結局のところ、眠りこける者なのです。皮肉ではなく、罪人はこんなものではないのでしょうか。どれほど努力しても、ちょっとした油断ですべてをだめにしてしまう。自分に非がなくても、大損害を被ってしまう。こんな話は日常茶飯事です。賢い娘は一体どこにいらっしゃるのでしょうか。また、また賢いと思われている娘たちも、実際はどれほど賢いのでしょうか。

さて、愚かな娘は予備の油を準備せず、婚礼の席に入れません。まったくうかつでしたね。

おそらくパニックしてしまって、まにあわないとわかっていても油を買いに行ってしまったのでしょうか。では一体この愚かな娘は誰でしょうか。私自身です。私はいろいろなことを思いつく方だとは思いますが、それを実行するのもまあまあできることもあります。しかし、たいいてい詰めが甘いのです。よく最後の場面であわてることがありました。さらに教理的に言えば、賢い娘とは信じたクリスチャン、愚かな娘とは信じない人、と言われます。また、極端な人であれば、クリスチャンでも愚かで救われない人、がいるとか言いだすかもしれません。私は自分の救いを確信してはいますが、この場面にもし入ったとすれば、まず確実に愚かな娘の役になってしまいます。

ではイエス様はこの話で何を言いたいのでしょうか。賢い娘のようにになりなさい、愚かな娘のようになってはいけません、ということでしょうか。それとも別の事柄がふくまれているのでしょうか。

主の命令は「目をさましていなさい」です。油を用意していなさい、じゃないのです。たとえ油がなかったとしても、目を覚ましていれば何とか対処できたのかもしれませんが。しかし、賢い娘も愚かな娘も同じように眠ってしまったのです。主の願いは目を覚ましていなさいですから、結局、賢い娘も愚かな娘も主の命令を守れてはいないのです。主の目には、この人がいい信者、あの人は悪い信者、この人は成長した信者、この人は未熟な信者、そういった測り方はまったく存在していないのではないのでしょうか。主の目にはともに愛する子供であり、ともにどこかが抜けているのです。賢い娘も本当は大したことはないのです。

では、本当に賢い娘、賢い女性とはだれでしょうか。他ならぬ主イエスご自身です。イエスは本当に賢い、完全な娘です。弟子たちがゲッセマネで眠りこけたときもイエスさまだけは目を覚ましていました。そして、このように目を覚ましているイエス様が私たちのためにともしびをととのえてくださるのです。旧約聖書、出エジプト記の30章には、幕屋でともしびをととのえる祭司アロンが出てきます。主は私たちの祭司です。眠りこけている私たちのためにともしびを整え、油も補充し、来るべきご自身の来られるときのために油断せず、わたしたちのために準備してくださっています。なんと感謝なことでしょうか。

この箇所の賢い娘たちは、愚かな娘たちを助けることができませんでした。しかし、主イエスは完全な娘として、本来愚かな私たちにも手をさしのべて下さったのです。賢い娘たちをやさしく起こし、愚かな娘たちには油を用意してくれました。ご自分の十字架によって私たちの罪、愚かさを示し、その復活によって、尽きることの無いのち、油を注いでくださっているのです。感謝しきれません。

ICBCにとって、感謝してもきれない女性がたくさんいます。めいさんもそうですし、今

ここにいる皆さんもそうです。私が特に思い出すのは水野さんという方です。水野商店の社長さんとしてこの会堂建築に大きな犠牲を払ってくれました。また石原昇子さんもそうです。この中にも彼女によって親しく助けていただいた方がいるでしょう。お二人ともすでに召天されましたが、ICBCに偉大な足跡を残してくださいました。

私たちは愚かな娘でした。賢い娘になろうとしてもできませんでした。しかし、完全な娘、主イエスの計らいによって愚かな娘から、賢い娘へと変えられました。わたしたちが「油がない」とおろおろしているときに「もうすでに用意してあるよ」と手を差し出してくださいました。その愛に感謝するばかりです。

油なく おろおろしている おろかなわれらに 主はその油を分けられた
主の血に染まった 真紅の油に 愛のともしび 今もかがやく